

History of 200 years in Samani

ふるさと様似・200年のあゆみ

年 号	西暦	で き ご と
かんえい 寛永12	1635	うんべつ 運別 (今の海辺川→うんべがわ) の支流ポロナイの水源に金鉱を発見し、金をとりはじめた (東金山金山→ひがしかなやまさんざん)
かんせい 寛政11	1799	エンルムに会所ができる 様似山道(約7km)完成
かんせい 寛政12	1800	たかだ や か へ え しんえつまる 高田屋嘉兵衛の辰悦丸ほか様似による
ぶんか 文化3	1806	おクタスシ(栄町)に等澍院を完成。7日間勧請供養する。
ぶんか 文化8	1811	ご ま どう 等澍院護摩堂ができる
ぶんせい 文政4	1821	等澍院、ソピラウドルサンナイ(本町)に移転
めいじ 明治18	1885	等澍院、廃寺となる
めいじ 明治21	1888	さまにかんいしょうがっこうかいこう 様似簡易小学校開校
めいじ 明治30	1897	つかだじゅんでん じゅうしよく 等澍院再び活動する。塚田純田が住職となる
めいじ 明治38	1905	やくばちようしゃ しおみだい しんちく 様似村役場庁舎、潮見台に新築
たいしやう 大正14	1925	でんとう はじめて電灯がつく(浦河から送電 278戸に点灯)
しょうわ 昭和8	1933	様似、村になる。
しょうわ 昭和12	1937	ぜんせんかいつう 日高本線、様似まで全線開通。様似、西様似、鵜苫各駅開設
しょうわ 昭和22	1947	様似中学校開校(鵜苫、冬島、幌満分校)
しょうわ 昭和27	1952	ちやうせいせこう 町制施行(村から町になる)
へいせい 平成17	2005	だけこうざんしよくぶつぐんらく くに とくべつてんねんきねんぶつ してい アポイ岳高山植物群落 国の特別天然記念物に指定される こもんじよ え ぞ さんかんじ しりよう くに じゅうようぶんかざい してい 等澍院古文書ほか蝦夷三官寺資料 国の重要文化財に指定される

様似郷土館

〒058-0024 様似郡様似町会所町1番地 (0146) 36-3335

様似町教育委員会

〒058-0014 様似郡様似町大通1丁目21番地 (0146) 36-2521



日本財団
The Nippon Foundation

助成事業

■パンフレット内のイラスト／ひらかわしょうじろう
■表紙上図 「仙台藩東蝦夷地経営図の内シャマニ」市立函館図書館蔵
■表紙下図 「北海道歴検図」北海道大学附属図書館北方資料室蔵
協力／(社)北海道海事広報協会



S a m a n i U j o u



なが
高田屋嘉兵衛 アボイ岳を眺める



小樽港にて 小樽市博物館 奥山コレクション



日本が「江戸時代」と呼ばれていたころのことです。いまから200年ほどまえ、海には大きな船があらわれ、船はたくさんのモノを各地に運ぶようになりました。本州の日本海がわもたくさんの船が行ったり来たりするようになって、それまではずいぶん遠かったいまの北海道も船でむすばれました。当時は「エゾ地」と呼ばれていた北海道の魚やコンブなどが本州のほうに運ばれました。わたしたちの「さまに」もだんだんと人が集まり、町になっていきました。



小樽港に集まった北前船 小樽市博物館蔵



大きな船がやってきた。 むかしの北海道はにぎやかになりました。



小樽市博物館 林コレクション

北前船

S a m a n i U j o u

きたまえん 「北前船」って風でうごいたんだよ

「江戸時代」のおわりころから日本海にあらわれた大きな船を「北前船」といいます。この船はたいへんすぐれた船で、遠い本州と北海道のあいだをむすびました。帆というものを立てて風の力で船をうごかし、港をつぎつぎとたずねているいろいろなモノを買い、またそれを売ったりする船でした。トラックとスーパーマーケットがいっしょになったような船だね。北海道へはコマなどをはこび、本州へはニシンなどをはこんで、たいへんもうけたんだって。この北前船がわたしたちの様似にきました。目じるしはエンム岬。様似はとってもいい港として有名になっていきました。



「北海道歴史図」北海道大学附属図書館北方資料室蔵

Kitamaebune.

たかだやかへえ ふるさとひと1 ワシが高田屋嘉兵衛だ。

高田屋嘉兵衛というひとは北前船をたくさん持っていた大商人です。むかしの箱館、いまの函館を中心として、おもに大平洋に沿ってかつやくしました。嘉兵衛は「船をうごかす名人」で、海のあたらしい道をどんどん発見していきました。商人でしたがたくさんのひとにたよりにされ、様似に寄ってから当時の幕府の役人といっしょに、

いまのクナシリ島からエトロフ島への航路を開拓しました。しかしそのころの日本はロシアの国と仲が悪く、嘉兵衛は自分の船とともにロシアのカムチャッカにつれていかれました。でも嘉兵衛は日本とロシアが友達になるよう努力して、みんなに尊敬されるようになりつばなひとでした。

Kahei Takadaya.





様似はいい港。ひとびとがあつまってきて まちになってきました。

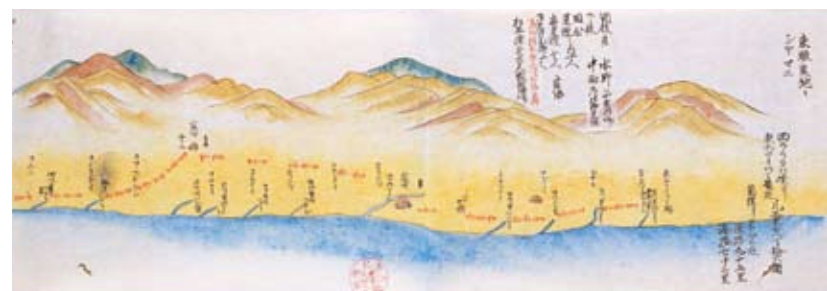
Samsani Ujō



「東蝦夷図巻 乾」北海道大学附属図書館北方資料室蔵

風でうごく船のむかし。わたしたち様似のあたりの太平洋は「ひがしえぞ」地と呼ばれていました。なかでも様似はたいへんよい港のまちとして、はじめは金山（金

が採れるところ）として、つぎに海産物（海で採れるもの）をあつめるところとして、だいに人口が増え、いまから200年ほど前には、いまの日高地方の中心のようになっ



「蝦夷全地」北海道大 学附属図書館北方資料室蔵



「東蝦夷夜話 中」北海道大学附属図書館北方資料室蔵

てきました。そして「会所」というものができ、「様似山道」という道ができ、ますます大きな町になってきました。海と港とまち。エンルム岬に立ってもういちどよく見てください。

「会所」というのが社会の中心でした。

「江戸時代」のおわりのころ、様似は「シャマニ場所」と呼ばれていました。この場所というのはそのころの北海道を支配していた松前藩のしくみで、ある地方が商人にまかされるというものでした。1799（寛政11）年、様似は松前藩から幕府の支配に変わり、それまで場所の中心だった「運上屋（所）」が「会所」と改められました。会所には支配人をはじめ、おおくのひとびとがいて、まちやもっと広い地方の経済（みんなの仕事）を指導しました。だから会所のあるところは当時の大きなまち、といえます。日高地方ではわたしたちの様似。会所の建っていたところがいまの「会所町」です。



Kaisyo.

ふるさとのひと2

「山道を開け」と中村小市郎

シャマニ会所のはじめの責任者は中村小市郎というひとです。小市郎は幕府の「えぞ地調査隊」のひとりとして活躍し、様似をよく知っていました。だからこのまちにくると、ただちに「様似山道」という山道をつくる責任者になり町をよくしようとがんばりました。2年間はたらい、そのあとはまた幕府からの命令でカラフト（いまのロシア領サハリン島）を調べる仕事をやりました。すぐ行動する元気なひとでした。



Nakamura Koichirou.

ふるさとのひと3

地蔵になった和助さん

中村小市郎たちが「様似山道」の仕事をしているころ、斉藤和助という人が南部（いまの東北地方）からやってきました。和助はとても親切な人で、道づくりを手伝ったり、毎日のいろいろなことに協力しました。「和助さんはすばらしい人だ」とみんなが感心し、91歳でこの世を去りましたが、そのころの様似やえりもの人びとはみんな「和助地蔵」を建てました。ふるさととみんなのためにはたらい人がお地蔵様になったわけですね。えらい人ですね。



Saitou Wasuke.

等澍院に参拝する人々



護摩堂



北海道東照宮(函館)

様似等澍院。幕府が建てた たいへん古いお寺です。

S a m a n i U j o u



松浦武四郎「東蝦夷日記」より。等澍院に熊が現れたときの様子

「えぞ地」むかしの北海道がだんだんひらけてきたころです。そのころ隣の国のロシアの船があらわれたりして、よその国とはつきあわないと決めていた幕府は困りました。またロシアがキリスト教の国というのも困りました。そのう

え、様似をはじめ、えぞ地にも日本人がふえてきて、お寺が必要と考えました。そこで幕府はいい港で会所もある様似に1806(文化3)年、等澍院というお寺を建てました。同じようなお寺を有珠と厚岸にも建てました。



やくしによらいさんぞんぶつぞう
薬師如来三尊仏像 江戸時代末期(推定)
●昭和57年10月10日指定 様似町指定文化財

くにしていじゅうようぶんかざい
国指定重要文化財



昭和58年 様似町指定文化財
平成17年 国指定重要文化財

等澍院古文書は、開山住職秀暁の選任から11世住職徳弁に至るまで、主に幕府や他の寺とのやりとりについて書かれた文書類である。
住職記13冊と什物帳1冊、過去帳(霊簿)1冊が国指定重要文化財、他に書付(寺禄減減法通知書)1通が町指定文化財となっている。

等澍院ってえらかったんだ

Toujuin.

えぞ地の太平洋岸は「東えぞ地」と呼ばれていました。この地の支配が松前藩から幕府にかわったころ、幕府はりっぱなお寺を建てて住む人びとを安心させようと考えました。お寺の場所はどこがいいか。このとき、いまの伊達市有珠に善光寺、わたしたちの様似町に等澍院、厚岸町に国泰寺と三つのお寺を建てることにしました。幕府が建てるえらいお寺として、お寺は大名と同じような身分をもらい、この地までくる住職(お坊さんの代表)の旅は大名のようだったそうです。えぞ地に幕府が建てた三つの寺、これを「蝦夷三官寺」と呼んでいます。



ふるさとのひと4

ああありがたい、秀暁さまだ。

様似等澍院をひらいたはじめのお坊さんは秀暁という人でした。お寺ができた、お坊さんがきた、とみんながよろこんでむかえ、秀暁さんもまずえりも百人浜に「一石一宇」を建てたり、等澍院に足りない「護摩堂」を造ってほしいと幕府にたのんだりして、人びとに安心を与えたり、お寺をりっぱにしようと努力しました。でも、仕事は多いし、寒い土地にもなれず、住職になってから3年6ヶ月、42歳で亡くなりました。

Syugyou.

ふるさとのひと5

あれが「馬追い上人」慈真さま。

等澍院の第8代住職慈真さんは16歳ごろから等澍院に入り、お坊さんから住職まで23年6ヶ月も仕事をつづけました。若いころから馬が好きで、遠くに呼ばれると馬ででかけました。馬にまたがったお坊さん、あれが「馬追い上人」とたいへん有名でした。のちに牧場もひらいたそうですから、馬産地日高をはじめたようなひとでした。また、たくさんの記録を整理したことで知られています。会ってみたいような人ですね。

Jishin.